

国内実態調査報告書

テーマ : 演習Ⅱ・Ⅳ
ゼミ名 : 砂川 和範ゼミ
調査日 : 2019年11月5日(火)～11月8日(金)
調査先 : 沖縄観光コンベンションビューロー、昭和薬科大付属中高、金武酒造、
お菓子御殿国際通り店、沖縄コンベンションセンターなど
授業科目名 : 演習Ⅱ・Ⅳ
参加学生数 : 13名(3年生)、1名(4年生)

調査の趣旨(目的)

沖縄県における地域振興と観光ビジネス、地場産業の発展についての実態調査

調査結果

基本的に当初の予定通りの計画を実施し卒業論文も視野に入れた調査を行った。帰京後、ゼミにおいて中間報告を行った。

5日の沖縄到着後、那覇観光を全体でおこなったのち、6日は、午前中、那覇市の沖縄観光コンベンションビューローにてレクチャーを受け活発な質疑応答を行った。午後は、浦添市にある昭和薬科大学付属中高を訪問し専任臨床心理カウンセラーと補助スタッフの指導のもとグループカウンセリングを実施した。当学校は本学にも多数の進学者を輩出してきた県内きっての進学校であり、その交流は多大な成果を生み出したと思われる。7日は、恩納村のコテージをベースとして3班にわかれそれぞれ調査地に向かった。第1班は、キャンプハンセンで知られる金武町に所在する蔵元でフードビジネスを軸とした特色ある観光開発でも知られる金武酒造でインタビューを行った。経営者の女性起業家は沖縄大学で経営学科長も兼務されている経営戦略の専門家でもあり、学生にはとても学習効果の高い経験であったと思われる。第2班は、那覇市内において、県内に多数チェーン展開をしている「お菓子御殿」において販売、流通戦略についてインタビューをおこなった。第3班は、中部へ移動し、午前中は、沖縄観光コンベンションビューローの運営するブセナ海中公園を視察し、インタビューを行った後、午後は、那覇に戻り、沖縄コンベンションビューローを視察し、インタビュー、質疑応答をおこなった。

第1班と第2班は、インタビュー終了後、観光ののち、合流し、夜は恩納村のコテージに戻って3班の活動報告会をおこなった。